



# 9月の園だより

令和5年9月1日  
目黒区立田道保育園長

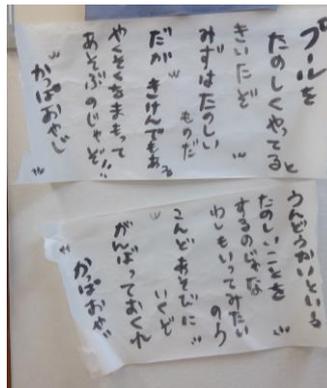
園庭にですとトンボが飛び始めました。園庭のプランターの稲は子どもたちの背丈ほど伸びて穂がついてきて、秋の訪れを感じさせます。

先月は暑い日が続き、水遊び、プール遊びが十分にできて、子どもたちの笑顔がたくさん見られました。8月31日にプール閉いを行い、幼児クラスの子どもたちは思い思いの泳ぎを披露し合い、お互いの頑張りを称えながら、今年の楽しかったプール活動の幕を閉じました。一人ひとり目標は違うけれど、鼻まで水につけてワニ歩きができるようになった、顔をつけられた、けのびができたなど子どもたちの表情には達成感で笑顔に満ち溢れていました。この達成感を糧に運動会では、それぞれの目標に向かい力いっぱい取り組む姿を励まし見守っていきたいと思います。

今月は引き渡し訓練を予定しています。保育園では毎月、避難訓練を通して子どもたちと一緒に避難経路の確認をしたり、職員は施設点検、遊具点検を行い、安全管理に努めています。備蓄品は職員、子どもと共に保育園で3日間過ごせる分が用意されています。近年、地震だけでなく、各地で台風の被害も増えてきています。ご家庭でもこの機会に備蓄品の確認、災害時の連絡方法など家族で話し合い、災害に備えて準備をしておけると良いと思います。

## 今月の予定

引き渡し訓練  
身体計測  
運動会



～かっぱからの手紙～



かっぱの足跡か!?



## ★園長先生がさらわれた?★ くじら組とかっぱおやじとの出会い

『ほいくえんのことをしりたいので えんちょうとおちやをのみながら  
いろいろはなしをきいているぞ しんぱいしなくてもだいじょうぶじゃ かっぱおやじより』

「園長先生がいない」とくじら組は大騒ぎ。不安そうな子もいる中、一通の手紙がかっぱおやじから届きました。「あははは お茶を飲みながらだっ。園長先生仕事してないじゃない」と怖さもなくなり、想像を巡らせて楽しい話になりました。子どもたちも“ほいくえんにあそびにきてね”“ともだちになってあげるよ”と、まだ会ったことのないかっぱおやじさんに手紙を書きました。そんなある日の午睡明け、廊下と窓ガラスに足跡が・・・。「かっぱおやじの足跡だよ」「遊びに来たんだねきっと」「また手紙だ」と目を丸くして興奮気味に事務所に報告に来ていました。手紙には、“うんどうかいというのをやるんじゃな。みんなをみにいくぞ”と書いてあり、その言葉にちょっと嬉しそうな恥ずかしそうな表情をしていました。

かっぱおやじに勇姿を見せたいという思いからでしょう、今まで以上に縄跳びの挑戦、ソーラン節の掛け声や動きがパワーアップしているように感じます。そろそろ、また手紙が届く頃でしょうか。



## プール遊びを楽しみました



### 『 貝を拾って 』

3歳クラス ペンギん組

ペンギん組の子どもたちはプール遊びが大好きで毎回楽しみにしていました。水に入ると嬉しくて「キヤー」「気持ちいい」と自然に言葉が出て満面の笑みです。アヒルやワニになりながら腰や胸まで水の中に入り少しずつ慣れてきました。プールの中の遊びは貝拾いがお気に入りです。プールの底に沈んでいる好きな貝を見つけて、顔が水面につくギリギリのところまで手を伸ばしてつかみます。取れると「先生見て、青の貝がとれたよ」と自信に満ち溢れた表情で教えてくれます。「わあ、すごいね、がんばって取れたね」と話すと「また取ってくる!」と言って貝を拾いに行っています。顔が水につけられるようになると、自分から潜り、素早く貝を取ったかと思うと、すぐにまた潜って取りに行っています。子ども一人ひとりがやってみようと思う気持ちになり、出来たことが自信につながり、毎回のプールの遊びがさらに楽しくなっていました。



### 『 流れるプール 』

4歳クラス いるか組

プール遊びがとても大好きな子どもたち、登園すると「今日プールだよね!」とワクワクしています。お休みの日にプールに遊びに行った子が、流れるプールが楽しかったという話をしてくれました。「こうやってフワってなるの!」というやりとりから、「みんなで流れるプールをやってみよう」ということになりました。「いいね、いいね」「どうやって?」と嬉しそうな子どもたち。さっそくプールに入り、みんなで同じ方向に向かって走ってみると、だんだん波がたってきました。流れが出てきたら、それとみんなで浮かぶと、「すごい!!」「わあ、流される~」と流れるプールの完成です。子どもたちはフワッと浮かんで流れにのっていました。それからプールに入るたびに、流れるプールを楽しみました。子どもたちのイメージどおりの楽しい流れるプールを体験することができました。



### 『くじら組のチャレンジ』

5歳クラス くじら組

プール遊びが大好きな子どもたちは「バタフライやってみたい」「うえむいておよぎたい(背泳ぎ)」とやってみたいことがどんどん広がっています。「イルカジャンプやりたい」と話していた子が「どうすればいいのかな?」と、とまどっていたのでフープを2つ使ってやってみました。すると手前のフープに飛び込むように入り、潜って2つ目のフープから浮き上がってきたのです。「やったね、できた」と声をかけると満面の笑顔でした。その様子に「私もやってみよう」と手を伸ばし潜ってフープくぐりに挑戦した子がいました。「すごい、潜って足が伸びていたよ」と声をかけると「できた」という経験がきっかけとなり、さらに次へのステップに挑戦し、潜ってバタ足をするようになったのです。自分の力を信じて少し勇気を出してチャレンジしたことから大きな喜びとなり自信を持つことができた子どもたちは、ひと回りもふた回りも大きくなりました。

